

素晴らしいVE！さらなる進化へ！

公益社団法人

日本バリュー・エンジニアリング協会

CVSフォーラム委員会 委員長

三好 達夫 CVS



今年は日本VE協会創立60周年にあたり、「VE誌の巻頭言を各委員会の委員長に」ということで、トップバッターとしてCVSフォーラム委員会委員長の私が執筆することとなりました。それに相応しい内容かどうか分かりませんが、私の経験した「素晴らしいVE」と現在取り組んでいる「さらなる進化」について、私なりに紹介させていただきます。

私が本格的にVEに携わることになったのは、今から約30年前です。三菱電機に入社し、家電品の開発設計に約15年携わった後、製造部のVE専任を務めることになりました。職務としては「部長と損益を共有しながらVEを推進し、損益を改善せよ」というものでした。VEを本格的に実践したことのない私でしたが、産業能率大学よりCVSの先生に来ていただき、各部門の専門家を集めたVEチームでWSS（ワークショップセミナー）を実施しました。

それまで設計者は機能で考えており、VEは当たり前前のことと思っていました。しかし、他部門の人達と機能を明確にしながら考えることで様々な情報が得られ、アイデアが発想できるということに気がつきました。そして抜本的な代替案を創り、コストを大幅に下げることができました。さらに、営業、販売会社との会議で発案された新機能を組み合わせることでトップシェアを回復し、損益改善を図ることができました。

2000年、別の事業に転任となり、損益管理を行うことになりました。機種の損益構造を明確にし、かつ原価企画・VEを導入した損益管理により損益改善を図ることができました。

そして2008年、本社生産部門にて全社の原価企画・VE推進を行うこととなります。主にVE人材育成とVE活動の指導・支援を担当することになり、まずはVESとCVSを取得しました。VE人材育成ではVEL・VES・CVSの取得推進を行い、VEL

にはVE基礎講座、VESにはWSSと受験セミナー、CVSにはCVS受験勉強会を実施しました。特にVES・CVSの育成には貢献できたと思います。

さらにVE活動の指導・支援では、家電から宇宙まで多様な事業に対してVE実施手順に基づいた指導・支援を行い、黒字化、世界トップシェアの獲得など数々の成功事例を導きました。これらにより、会社全体の原価企画・VE活動に対する取り組みも前向きになり、活性化を図ることができました。業績改善にもつながっていると思います。このようにVEは素晴らしいものです。

日本VE協会の活動では2009年から東日本支部R&D部会に参画し、TRIZのVEへの活用について研究しました。その後、差別化機能研究、VE七つ道具、機能定義の道具、未来洞察を活用した企画VE、デイト品質を探索する発想法等の研究を経て、現在はVEへの生成AI活用の研究をしています。適用段階の上流化、視点の拡大、より使いやすく成果の出るものへとVEのさらなる進化を目指し取り組んでいます。

東日本支部では、定年退職する2019年まで東日本支部副支部長を務めました。また、2012年のCVS取得後、CVSフォーラム委員会にも参画し、商店街活性化プログラムを作成しました。2019年にはCVSフォーラム委員会委員長に就任し、中学生を対象としたVE教育資料を作りました。SDGsをテーマとし、機能本位に考えることで多くの改善アイデアが創造できることを実体験してもらうものです。文部科学省の総合的学習と連携できるよう応援団のページに掲載し、支援も考えています。これらの成果物は一部を除き日本VE協会HPに掲載されています。ぜひご活用ください。

素晴らしいVE！さらなる進化へ！皆さんもVEに取り組みましょう。